

活動報告

◆診療部

診療部長 田辺大朗

2021年度も昨年に引き続きCOVID-19対策として発熱検査外来、COVID-19感染患者病床の運用を行った。

診療体制は前年と変わりなく、常勤医11人+外来非常勤医の体制で診療を行った。

外来体制は、循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・外科・泌尿器科・脳神経外科・整形外科・心臓血管外科・内科外来の他に乳腺外来・大腸肛門外来・糖尿病外来・肝臓外来・腎不全外来・禁煙外来の特殊外来などに変化は無く、新患者数3,289名、年間の総受診者数は37,124名である。紹介患者は1,593名だった。

救急外来はCOVID-19流行のため常に感染のリスクにさらされており緊張を要した。実際に救急搬入患者から感染が判明した事例もあった。救急外来では、年間の受診者は3,276名で、救急車搬入では733名を受け入れた。救急外来から587名が入院となった。しかしながら院内でのCOVID-19クラスターのため救急ストップせざるを得ない期間もあった。

総入院患者数は38,758名で、病棟別入院患者数は、一般病棟8,504名、地域包括病棟16,522名、回復期病棟13,732名だった。各病棟の在院日数/病床利用率は、一般病棟12.0日/86.3%、地域包括病棟18.5日/74.2%、回復期病棟57.3日/94.1%だった。地域包括病棟の一部をCOVID-19専用病棟に変更したため地域包括病棟の利用は減少している。

外来化学療法室は、手術後の治療成績向上や、延命/緩和を目的として、生活の質を落とすことなく安全で最大限の効果を得られるように各スタッフの協力の下に行っている。

当院は、急性期治療を終えてリハビリを行い在宅復帰するための中間施設としての役割も担っているが、また退院した後も継続的に支援を行うために訪問リハと通所リハを備えている。2021年度は、訪問リハは延べ3,811回、一方、通所リハは延べ4,518回リハビリを提供したが、これもCOVID-19の流行状況を見ながら感染対策に留意した。

予防医療として健診事業も行っており、2021年度は1,926名の健診を行った。

済生会の基本方針としての生活困窮者への生活全般への支援をMSWが中心となり取り組んでいる。2021年度は無料・低額医療は7.95%であり済生会グループの中では下位に位置し、次年度の課題となった。

地域医療研修のため当院では研修医を迎え入れている。2021年度は済生会熊本病院と済生会横浜市南部病院から計6名が1カ月の研修を行った。急性期病院では経験することができない地域での医療の実態をみるほば初めての経験と

なっている。COVID-19の流行は研修にも影響し、例年湯島診療所での離島研修を経験してもらい研修医には好評を博していたが昨年に続き今年度も中止せざるを得ず残念だった。

ワクチン接種にも関わらずCOVID-19の流行は治まる気配がなく、次年度も現体制を維持し感染に最大限注意を行いながら今まで行ってきた医療の提供を続けていく予定である。